

リスクを恐れない学生たち

起業を目指す日本の学生は少なくない。ビジネスコンテストには多くの学生が参加し、「起業サークル」と呼ばれる学生のグループは様々な大学にある。しかし、調査会社アイシェアによると起業に必要な準備（資金・プラン等）が整っていない状態で起業をすることに対して、20代の約8割が難しいというイメージを持っているという。起業することが生半可なことではないと多くの人が感じていることは確かだ。そこで我々は実際に起業を成し遂げた3人の学生起業家に取材した。

「大きな集団の一員となるよりも、そこから抜けて自分自身で新しい世界を切り開いていく」

シリコンバレーでこの言葉に出会い、株式会社 **prosbee** を起業したのは明治学院大学二年生の笠井レオさんである。**prosbee** は本の中の心に残ったフレーズを共有するウェブサービス、**Booklap** を展開している。彼は社会の歯車になるのではなく、自ら新しいものを作り出すという目的意識をもって起業を達成した。

独自のビジョンを持ち起業したのは慶應義塾大学二年生の今井美槻さんだ。

塾講師のアルバイト経験から、現状の教育界では親の収入による教育格差と単調な暗記に終始する受験指導が問題であると感じた。そういった問題を解決することを目指して株式会社 **YouReaL** を起業し、塾の経営や家庭教師派遣業を行っている。自分自身の経験から問題を見つけ、起業につなげたのだ。

インターネット広告のコンサルティングをしている早稲田大学二年生の小島久之さんは起業の目的を自己の成長のためとした。「リスクは恐れるものではなく、自分を駆り立てるポジティブなもの。」と語る。リスクを前向きにとらえ起業したのだ。彼にとっての唯一のリスクは事業を継続できないことであるという。彼はリスクを恐れずにまず行動することが重要だと考えている。

このような学生がいる一方で、日本での起業家数は少ない。平成19年度中小企業白書によると90年代以降、アメリカの開業率が毎年10%前後であるのに対し、日本の開業率は3%前後である。アメリカではベンチャーキャピタルが起業家を経済面でもノウハウ面でも支えている一方で、日本では起業への支援体制がまだまだ未発達である。今後彼らのような起業家を支えていく上で支援体制を整えていくことは大切だろう。

竹内こうた、山崎かれん